Mercy

2011年　橘（たちばな）　木竜（きりゅう）

「弥陀の墨着た天使」と笑い
嘆き光らす民へ溶き看取る
罪の血を着た悪魔も問わず
白い奉仕を巻いてただ笑う

呪縛の譜は高々編まれ
秋立つ綾が着こまれる
炙りの詞が看取りを拒み
闇路に雪は寄せてきた

慈悲の目を何度と捧げても
正義は「理想」と黒血の泡
弥陀の置く薬を絶え間なく
持たせて御空を見上げるだけ

母の海見た愛児は睨む
飛沫焼かれた肌を覗かせて
祖母の海見た愛児の琴が
開き探した刃先震わせて

鋳型の賦が緋緋書かれ
金着た銅は音を編む
崇めの詞が白床（しらとこ）に満ち
闇路を業火照らし出す

慈悲の目を何度と捧げても
鉛の思想が溶き混ぜられ
染み渡る火の児を引き出させ
抑えて旅路を明かしていく

慈悲の目を何度と捧げても
新たな旅路は鋳型の先
開け溶かす薬をささやかに
添え足し呪縛を壊していくわ